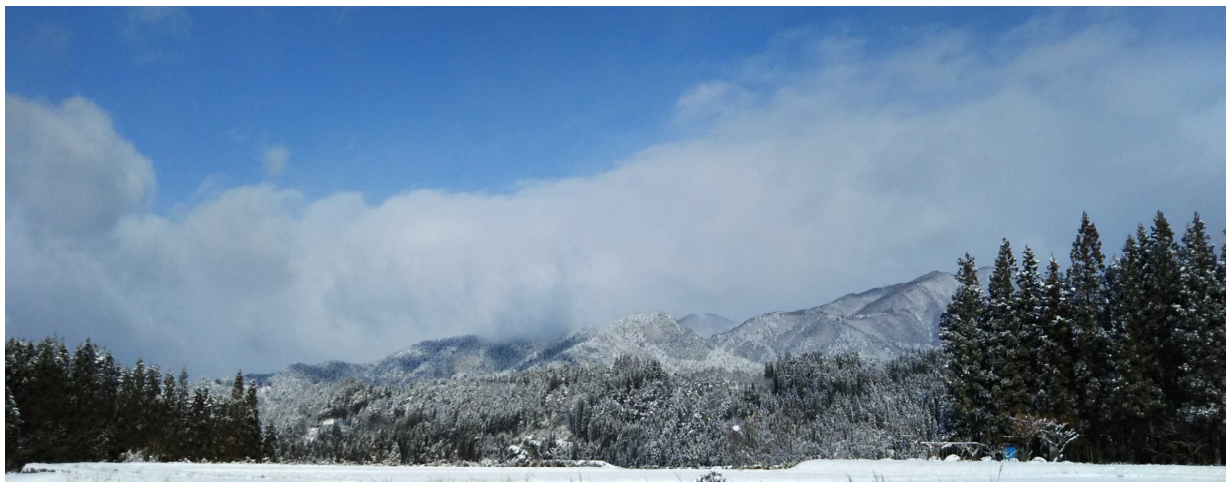




上宝かわら版

2020年 1月版

「上宝だから」

飛騨上宝自然人倶楽部



HIDAKAMITAKARA SHIZENJINCLUB

明けましておめでとうございます

令和2年（2020年）

日本の新しい夜明けになる予感がします。今、世界中で大変化が起こっています。人類の文明発展史の中で、何度目かの変革期を迎えていると思います。

AI時代到来とっていいでしょう。人間が作り出した科学技術が、人間の能力を超える時代です。言い換えれば、人間が人間であることの価値が試される時代だといっていいでしょう。

私は、上宝は縄文文化を最底辺にして、それぞれの文化が積み重ねられ、それらの文化の上に更に現代の最新の文化が積み重ねられている、日本文化でも稀有な重層的な文化社会だと思っています。

つまり、海外の文化は時の権力によって破壊され、全く別の文明が誕生していますが、これらの文明は前の文明と継続していません。

日本の文明でも都市地域では、その傾向

があります。しかし、上宝は文明が古代から現代まで継続しているのです。

従って上宝人？は、血筋的にも魂的にも一貫して継続しているのです。これは私の仮説です！（笑）

ともかく私は、上宝は神から選ばれた特別な地域だと思っています。

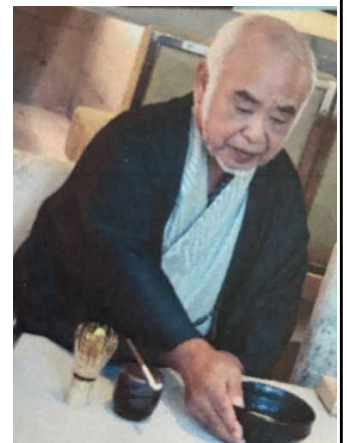
だから2020という区切りの年を迎えて、我が社も上宝の繁栄のために、全力を尽くす所存です。

上宝を将来、おしゃれで素敵な地域にして、フランス人のような粋な人々が移住する街にしたいと思っています。

「ジャパンアーバンビレッジ上宝」というイメージで。

なんだかワクワクしてきます。

さあ今年も頑張ります！
宜しくお願いします。



小林啓利氏を悼み



上宝の巨星墜つ！

あまりにも突然のことでした。
心から哀悼の意を表します。

我が社としても、また個人的にも小林家には大変お世話になり、懇意にさせて頂いておりましたが、その大黒柱のお父さんの逝去を知り、しばらく言葉がありませんでした。



上宝には誇るべき文化遺産、歴史遺産がありますが、現在でも人物遺産とでも言うべき人々が沢山おられます。その中でもこの方が筆頭でしょう。

人柄もさることながら、仕事に対する情熱は伝説的ですし、なにより特筆すべきは芸術に対する造詣の深さです。日展での数々の入選表彰は上宝で知らない人はいません。



彫刻では、写真にある「獅子頭」と「馬」が有名です。写真の「馬」の立像二対は未完成の素削り状態ですが、兼ねてから金住が「欲しい欲しい！」とおねだりしていたところ、小林さんの息子さんが我が社の本社（吉野）に運び入れてくださいました。大切に保管し、いずれ芸術家に完成してもらおうかなと思っています。フランス人彫刻家に頼みたいなと夢見ています。



そして盆栽の見事さと数の多さは半端ではありません。なかでもサツキについてはプロと言っていいでしょう。美しい枝ぶりにお父さんの愛情を感じます。

きっとご家族の方が然るべき対応を考えられていることと思いますが、一人でも多くの皆さんが鑑賞できるといいですね。

また、一番下はお孫さんのために作ったと教えてくれた小さな獅子の写真です。

「中はどうなってるの？」と覗いているのが面白いと話してくれた笑顔が浮かびます。

秋に蓮根をお持ちした時にお目にかかったのが最後になりましたが、大きな温かい手の温もりが忘れられません。心よりご冥福を祈ります。

上宝の義民を偲ぶ催し

12月5日、大原騒動に関与した本郷善九郎が処刑された日に因み、上宝の義民を偲ぶ催しが2018年から始まりました。

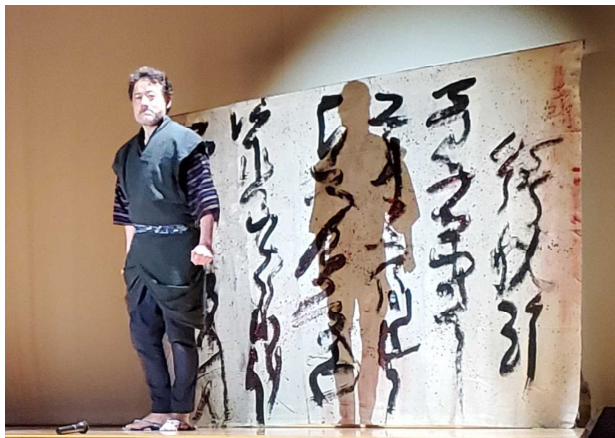
2018年は北稜中学校にて一人芝居を上演させていただきましたが、2019年12月5日には本郷小学校の体育館にて、全校生徒さんや父兄の方々、地域の方々にお越しいただき、中田裕一さんの一人芝居を再び上演させていただきました。また今回は善九郎の処刑場面にゲストをお迎えしました。

本郷小学校では、6年生になると善九郎の学習も行うということで興味深く見ていただきました。この本郷小学校には、善九郎直筆の手紙の写しが額に入れて掲げられており、「この手紙がそうなんだ」「これやこれや！」と子供達も理解を深めていました。

上演後には上宝郷土研究会の清水清一さん、石笛奏者の横澤和也さん、脚本を書いた弊社代表の金住そして俳優の中田裕一さんを迎えてのトークタイムがありました。

上演後の質問や感想を聞くと、沢山の生徒さんの手が挙がり、出演者の方々も喜び驚いていました。このように郷土の歴史を学び、先人達の苦労を理解し現在の暮らしに感謝するという学びのお手伝いできたなら大変嬉しいことです。

また、12月に行われた全国米食味コンクールで見事金賞を受賞した本郷小学校4年生の皆さんを讃えるために、飛騨地域地場産業振興センターの専務理事、伏見七夫さんにもお越しいただき、改めてその素晴らしい活動の労をねぎらいました。上宝の子供達、素晴らしい後継者に育ってくれるといいですね。そして私達はいつも美味しいお米を食べて暮らしていることに感謝しなければいけませんね。ありがとうございます。感謝！！



■ 一人芝居 「上宝三義民物語」 ■

主催：(株)飛騨上宝自然人倶楽部 共催：上宝郷土研究会
脚本：金住則行 石笛：横澤和也 出演：中田裕一（劇団太陽主宰）
特別出演：坂田慎一（小野派一刀流 剣術師役）

3年目の挑戦！

なぜレンコンを作るのか？ 3

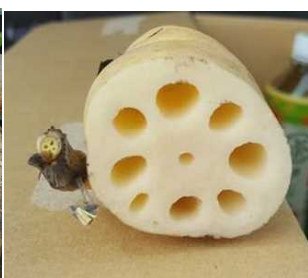


暑い夏も過ぎ雑草取りも終わり秋の気配を感じる頃になると、田んぼの蓮の葉も徐々に枯れてきます。こうなると蓮根の収穫が近くなります。そして10月の中旬を過ぎ、お天気を見計らって今年も蓮根の収穫を皆さんで行いました。

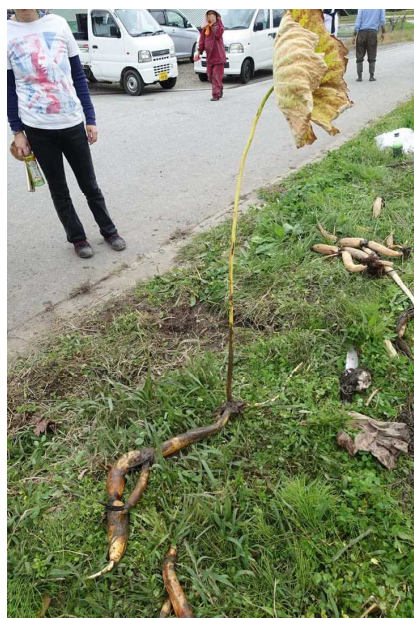


昨年同様、蓮根栽培に興味を持たれる方を始めとして、沢山の方と一緒に飛騨蓮根を掘りました。膝下の深さなので、初めての人や女性でも掘ることができます。

「一度やってみたかったんです」という若い女性の方も「楽しい！」と掘って行かれました。お土産も沢山抱えてお帰りになりました（笑）。



採れた蓮根は、昨年同様立派な出来映えです。浅床は横に伸びる性質なので、皆さんが良く目にするコロンとした蓮根と違い細長く成長するのが特徴です。中は真っ白！！



←これはとても貴重な写真です。

枯れた葉を下に伝っていくと細長く節が続いています。

これが浅床蓮根です。横に伸びている状態がわかりますよね。

掘るときに踏んだり途中で折れたりすると、そこから泥水が中に入ってしまうので、掘るのも緊張しながらの作業です。



こうして掘った飛騨蓮根は、なんとあの加賀蓮根と同等の評価をいただき、駿河屋アスモ店さんで販売させて頂いています。

皆さん、見かけたら手に取ってみてくださいね。上宝の蓮根です。

耕作放棄地を作らないため、飛騨の地で蓮根栽培を！ 2020年も頑張ります！！

毎週水曜日 11:30 ~ Hit's FM にて
弊社代表金住の「白ひげ弁護士 徒然日記」を放送中！
月曜日には再放送もやってます